

令和7年8月7日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

**標 題** 猛暑の中、飼料用トウモロコシの収穫開始 県内外の畜産農家へ供給

(ダイジェスト)

出雲市の2つの農業法人が、猛暑の中、島根県内外の畜産農家に供給する飼料作物「デントコーン」の収穫を開始しました。近年の気温上昇により播種時期を早めることができ、今年は4月4日に播種を行い、7月29日に収穫を迎えました。

猛暑が続く中、平田地区と斐川地区にある2つの農業法人が、デントコーンの収穫を始めました。これは、島根県内外の畜産農家や関連企業、計6つの経営体に供給するための取り組み



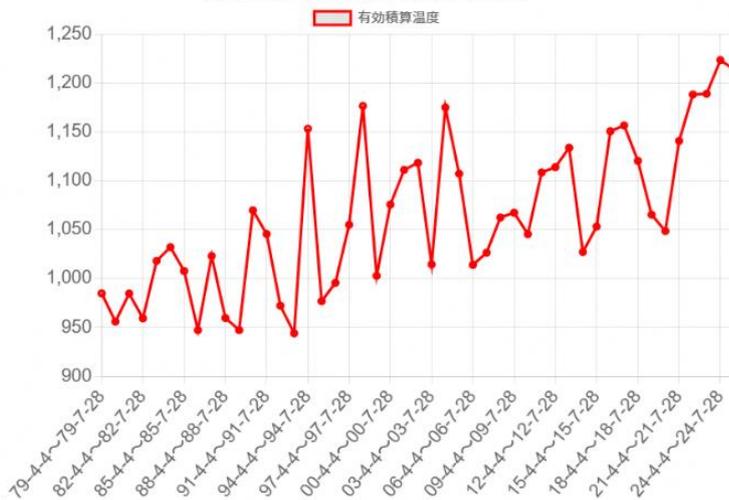
で、両法人は合計30ヘクタールの水田を活用した輪作体系で栽培しています。播種から3カ月ほどで草丈3メートルにも達しました。収穫には専用の機械（左写真）を使い、草全体を刈り取って細かく砕いた後、ホールクロップサイレージとして加工し畜産農家へ届けられます（右写真）。今年は気温の上昇により、播種時期



を早めることができ、4月4日から播種が始まりました。

収穫は、有効積算温度※や草の水分量などを総合的に判断して行います。収穫前日の7月28日時点では、有効積算温度が収穫の目安である1,200℃を超える1,274℃に達し、水分量もサイレージ発酵に適した70～80%の範囲に収まっていたことから（島根県畜産技術センター酪農・担い手支援科調べ）収穫を迎えました。

出雲における有効積算温度(℃)の年次変動



ただし、気象条件によっては栽培期間が延び(凶)、輪作体系に影響を及ぼす可能性もあります。こうしたリスクを分散するためには、輪作に活用できる農地の確保が重要な課題となっています。

一方、畜産経営は、輸入飼料の価格高騰や水田の主食用米への回帰など、さまざまな試練に直面しています。現在は飼料コントラクターの協力により支えられていますが、今後の持続可能な農業の実現には、国産飼料と輸入飼料をバランスよく併用できる体制の構築が不可欠です。そのためにも、国際情勢の安定化が強く望まれます。

※有効積算温度：デントコーンでは日平均気温から生育下限10℃を引いた値を播種日から積算した値